令和3年度飯綱町社会福祉協議会事業報告

令和3年度は、4月のふれあいの園における新型コロナウイルス感染者の発生から始まり、その後も終始ウイルスと共存しての事業実施となりました。その様な中、活動を全て中止するのではなく県・町の感染の状況を確認しながら、感染対策を実施しての活動にシフトし、一部中止の事業はありましたがほぼ実施することができました。しかし、高齢者を取り巻く環境は変わりなく、感染の恐れから外出や人々が集まる機会が失われている現状にあります。ウィズコロナ生活はこれからも続くと思われ、いかに人々と地域とのつながりを維持していくかが課題となっています。

新たに重層的支援体制整備事業の実施のため、2名の職員を町に派遣しました。包括的相談支援事業のための窓口設置や多機関連携、参加支援事業のための居場所づくりや就労支援等、来年度の正式実施に向けて準備を進めております。すでに強化している社協における相談体制や就労支援等の体制とも連携しながら、町全体の支援体制として円滑にスタートできるよう進めてまいります。

介護・障がい者サービスでは、大きな介護報酬の改定に合わせ、自立支援・重度化防止の取り組みや地域包括ケアシステムに向けた在宅サービスの充実を目標に事業を進めてまいりました。リハ専門職、管理栄養士、歯科衛生士とも連携した専門性の高いサービスの提供や、データを活用した評価を行うための体制整備が進み、利用者へも結果が還元され意欲の向上につながっていることは一つの成果と言えます。

新型コロナウイルス感染症を恐れてのサービス利用控え、ワクチン接種による体調不良での欠席等が利用実績に顕著に表れ、残念ながら予算目標を達成することはできませんでした。ただ、感染症を理由にしているばかりでなく、サービス事業所から地域に向けて積極的に情報を発信したり、住民と交流する機会を通し事業所の敷居を下げる取り組みもしながら、地域に根ざした事業所となる必要があると考えております。また、社協が目指す自立支援や利用者本位のサービスが提供できるように今後も努めてまいります。

1 総務課

■重点目標

働き方改革を推進し、働きがいのある職場環境への改善に向け取り組みます。

① 労働生産性の向上に努めます。

- ・労働力不足が加速する中、一人ひとりの業務の見える化と標準化の見直し
 - ▶タイムカードを導入し、労働時間の客観的把握を行った。
 - ▶コロナ禍対策としても時間差・分散出勤を奨励
 - ▶働きがい確認シートを活用し、職場環境改善に活かした。
 - ▶ネット研修の活用、派遣職員の活用及び無資格者採用と育成を図った。
 - ▶労働局推奨の社労士相談を受け、雇用改善について検討した。
- ・ICTの利活用促進による業務効率化・業務負担軽減
 - ▶居宅介護事業所（ケアマネ）にタブレット端末2台、訪問介護事業所（ヘルパー）にタブレット端末1台を導入し、ケア記録の効率化を図れた。
 - ▶共有ファイル「ポケット」の導入により、全事業所のPCからデータの閲覧が可能になった。
 - ▶出退勤ソフト及びタイムカードを導入し、出勤簿廃止によりペーパーレス化を図った。
- ・運転適性検査の実施と交通安全意識の向上
 - ▶令和2年度から継続し、全職員の運転適性検査を受診（62名受診）
 - ▶運転適性検査結果が要注意者・未受診者に法人安全運転研修を実施（33名参加）
 - ▶送迎車輛に「高齢者送迎中」の表示を行った。また、ドライブレコーダーの使用を検討した。

② 離職防止・定着と採用強化を図ります。

- ・コミュニケーションスキルの向上（能力診断で自身の強み・弱点チェック）
 - ▶法人研修等の実施により、コミュニケーション能力のスキルアップに繋がった。
- ・キャリアパス再構築
 - ▶運用に至らず（処遇改善加算申請時の要件のまま）
- ・学卒者新規採用
 - ▶総合職2名募集し、1名採用（社会福祉士）、2次募集に応募なし

③ 職員満足度の向上を図ります。

- ・ストレスや疲労蓄積の軽減
 - ▶全職員のストレスチェックを実施
- ・職員の福利厚生の実施
 - ▶スタミナ手当の支給・・・1人3,000円分の引換券を発行し、町内の飲食店（テイクアウト利用可能店舗）を対象
 - ▶ソウエルクラブ加入者数：72名（R3現在）
 - ▶職員アンケート実施
 - ▶介護現場の腰痛予防対策としての整体師によるマッサージの実施増
- ・ハラスメント対策の強化
 - ▶衛生委員会により、ハラスメント調査アンケートを実施

■課題等

年次有給休暇取得数や超過勤務時間が職員により差がある。

一般事業主行動計画に基づき、定時退社の促進と新たな特別休暇の実施を検討するなど、仕事と育児の両立が図られる職場環境づくりを推進していく。また、人事考課と給与体系の連動した運用を検討していく。

●その他

	R3年度	R2年度
介護等事故報告	175件	148件
保険対応(医療機関受診)	17件	10件
労災	7件	5件
車両事故報告	29件	29件
修理	9件	14件
苦情報告	8件	13件

2 地域福祉課

■重点目標（事業）

地域共生社会の実現に向けて、地域福祉活動計画を指針に事業を推進します。

- ① つながり隊を中心に、つながり支えあえる地域づくりを推進します。
 - ▶つながり隊長会議からの提案により横幕を作成し、各公民館（公会堂）に掲示
 - ▶つながり隊アンケート調査実施 調査期間【11/22～12/20】 回収率96%
 - ▶つながり隊長会議 【3/2】午後と夜の2部制で開催
- ② ボランティアのすそ野を広げるため、活動の周知と新たな活動者の発掘に取り組めます。
 - ▶ふれあいぽけっとにて「いいづないいまちボランティア通信」の連載
 - ▶秋の一斉清掃やがあたく塾に、男性や若い世代を含む多くのボランティアが参加
- ③ 新たに法人後見事業や就労準備支援事業に取り組む相談体制の機能強化を図ります。
 - ▶飯綱町社協でも法人後見ができるよう定款などを変更
 - ▶全戸に成年後見制度のパンフレットを配布し、事業の周知を実施
 - ▶就労に関しては、町内のごみ拾い、洗車、マイマイガ駆除、草刈りなど年間を通して就労体験を実施

■課題等

コロナの関係でどの地区も活動が減りつながりが減少している。また、ボランティアの活躍の機会も以前に比べると減っている。

就労準備支援事業に登録はしたが、実際の作業への参加につながらない方もいた。

次年度も、地域福祉活動計画を指針に人とひととがつながり、互いに気にかけて、ささえあえる地域づくりを進めていきたい。

■総合的企画

- ふれあい広場の企画実施 新型コロナウイルス感染予防のため中止
代替企画「みんなの一步で未来へつなぐ企画展」開催【11/3～11/9】
- 福祉フォーラムの企画実施 新型コロナウイルス感染予防のため中止
- 飯綱町地域福祉活動計画の推進
基本理念の「おはようと笑顔を交わす地域の絆」を横幕にして全地区に配布
ふれあいぽけっとに計画の基本目標1～3と個別重点課題への対応をマンガにて周知
- つながり隊の事業推進（災害時住民ささえあいマップの更新、訓練実施）
学習会 年間 6地区 お楽しみ食事会 年間 2地区
災害時住民支えあいマップ更新 26地区 マップを使った訓練実施地区 13地区
- 住民主体による高齢者の居場所づくりの財政支援
介護予防通所サービス（B型）立上げ支援事業 立ち上げ地区には 50,000円補助 実績なし
- 総合相談体制の機能強化
自立相談支援（生活就労支援センターまいさぼ）の相談窓口
日常生活自立支援事業（成年後見支援） 6名 本年度解約 2名
金銭管理・財産保全生活サポート事業 14名 新規契約 5名
生活困窮者支援
・生活福祉資金貸付業務
緊急小口資金 10件
総合支援資金 初回 9件 延長 3件 再貸付 12件 } 計13,030,000円
福祉費 1件 … 900,000円
・生活困窮者つなぎ資金の貸付業務 9件
新法人後見事業 定款等の変更をし、全戸に成年後見制度のパンフレットを配布
新就労準備支援事業 作業日数69日 延べ参加人数 240名 実利用者数 10名
- 配食サービス（社協独自） 年間延べ 2956食
- 社協会費の募集 実績 3,449,000円
- 飯綱町多世代交流施設「メーラプラザ」管理運営

■高齢者福祉

- 交流事業（わらび会）の開催 年2回 お弁当配達 269食
- おせち料理の宅配事業 新型コロナウイルス感染予防のため中止
代替事業とし、年末慰問 お弁当配達実施 161食
慰問、配達には、民生委員さまにご協力をいただく
- いきいきサロンの推進 38地区 延べ開催回数 252回 延べ参加人数 2235名
- 老人クラブ連合会への協力
- 引きこもり高齢者の支援事業 男性高齢者のつどいの場「男笑室」の開催
年9回開催 延べ参加人数 65名

■障害者福祉

- 北部地区障害者自立支援協議会への協力
サービス調整会議 3回 協議会委員会 1回
関係者向け研修 1回 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの考え方について」
- 飯綱町障害者JV会議への協力 会議 1回
- 身体障害者福祉協会への協力 親睦旅行 新型コロナウイルス感染予防のため中止
- 手をつなぐ育成会への協力 親睦旅行 新型コロナウイルス感染予防のため中止
- 知的障害者等社会参加推進事業（SO日常化プログラム） 年7回 参加人数 54人
- 共同募金福祉車両貸出事業 延べ貸出回数 146回（26世帯）
- 車椅子の貸出事業 延べ貸出回数 14回

■青少年健全育成及び福祉教育

- があたく塾の開催 年2回 主な活動 町内散策、アルミ缶炊飯
- 高校生ボランティア活動の支援（アルミ缶プレス） 活動回数 9回

- 3 総合的学習の授業への協力 協力回数 39回
 4 社会福祉協力校の指定（小学校 2 校・中学校 1 校・高校 1 校） 連絡会議 1回【6/1】
 5 幼児・児童・生徒との各種交流の促進 福島ひまわりプロジェクト

■ボランティア及び住民活動の振興・育成

- 1 ボランティアセンターの運営
 2 ボランティア活動・市民活動等への相談及び活動のコーディネート
 3 ボランティア養成講座の開催
 折り紙講座 4回 参加者 46名
 古紙の分別に関する講座 【9/6】 参加者 11名
 絵手紙講座 【6/8、12/1】 参加者 32名
 ミニバスケットづくり 【2/26、2/27】 参加者 10名
 防災食講座 【3/22】 参加者 14名
 4 ボランティア連絡会への活動支援 ボランティア活動展開催 【2/22～2/27】
 5 ボランティアセンター運営委員会の開催 【7/28】 1回 ふれあい広場実行委員会と併せて

現在、社協で把握しているボランティアの活動者の人数・団体

区分	団体数	人数
個人ボランティア数		18
「ボランティア活動を主目的としている団体」の団体数と所属人数	12	201
「ボランティア活動を主目的としていない団体」の団体数と実活動人数	13	103
合計	25	322

■調査・広報活動

- 1 各種ニーズ調査
 買い物、iバスの利用状況に関する調査 調査期間【11/11～1/13】 回収率 74%
 2 広報紙（ふれあいポケット）の発行 【年12回発行】
 3 ホームページによる情報の提供
 4 地区懇談会等の開催

■関連する事業との連携

- 1 民生委員会との連携
 2 行政との事業連携
 3 町内福祉施設及び事業者との連携

■共同募金事業

- 1 世帯1,000円（目標）の共同募金の実施

実績	募金総額 2,924,872円
----	-----------------

 募金は、福祉車両貸出、福祉教育、広報紙、地域福祉活動やボランティア活動の振興などに活用

■その他

- 1 災害援護事業（災害救援体制の整備）

実績	募金総額 1,577,385円
----	-----------------

 2 日本赤十字社事業への協力
 3 日赤奉仕団活動への支援
 4 環境活動への支援
 5 戦没者追悼式への協力 新型コロナウイルス感染予防のため中止
 6 遺族会への協力
 7 特定目的の寄付について、その趣旨に沿った事業の実施

■受託事業

- 1 家族介護支援事業
 養成講座（オレンジパートナーフォローアップ講座等）
 オレンジパートナー養成講座

【10/13、10/20】 新規登録者 4名 登録済み参加者 8名受講
オレンジパートナーフォローアップ勉強会
【6/30、8/27、12/16】 年3回 延べ参加者 29名

介護教室（家族介護教室） 全5回 29名

啓発事業

前期高齢者への対応（健康寿命延伸 いきいき講座） 全6回 79名

2 在宅介護者リフレッシュ事業

在宅介護者のリフレッシュ

認知症介護者のリフレッシュ

在宅介護者同士の情報交換の場の提供

旅行プラン（6回） 和風の宿ますや 【6/23、6/24】 参加者 15名

赤倉ホテル 【7/13、7/14】 参加者 19名

ホワイトイン北志賀 【9/23、9/24】 参加者 14名

体験プラン（1回） ディープレストヨガ体験 【8/25、8/26、10/7】 参加者 15名

商品券プラン（1,000円分のお食事券） 申込者数 109名 実利用者 79名

3 生活支援体制整備事業【第1層コーディネーター】

全町的な生活支援・介護予防サービスの実施に向けての体制整備

地域資源マップのデジタル化

いっぴなわくわく発見健康マップの実施

オンライン体操教室の実施

買い物、iバスの利用状況に関する調査の実施

通所型サービスB従事者 立科町の従事者の方とオンライン交流 【10/11】

資源開発に関すること

生活支援・介護予防サービス会議への積極的な関与と参画

地域包括支援センター・第2層コーディネーターとの連携、情報共有

有償たすけあいサービス 相談件数 255件 チケット清算数 138枚

利用会員数 43名 協力会員数 73名

通所型サービスB 8か所 利用延べ人数 3,246名

訪問型サービスD 6か所

脆弱化の予知・予防に関する研究

4 結婚相談所運営事業

結婚相談所協力員会議の開催 年4回

結婚相談所登録者交流会の開催 新型コロナウイルス感染予防のため中止

男性を対象とした「もて塾」の実施 新型コロナウイルス感染予防のため中止

女性を対象とした情報交換会「ときめきクラブ」の実施 新型コロナウイルス感染予防のため中止

婚活パーティーの開催（5回/年） サンクゼール婚活パーティー【7/17 3/19】 2回/年
飯綱町からの参加者 各3名

上水内郡婚活プロジェクト事業 元気づくり支援金申請 不採用

5 子どもの居場所づくり促進事業（てんぐカフェ）

年20回開催 延べ参加者数 144名 延べスタッフ数 118名

お弁当配達 実施回数18回 延べ配達数 222食

6 地域住民グループ支援事業

いきいきサロン 38地区 延べ開催回数 252回 延べ参加人数 2235名

つながり隊（隊長研修会・地区福祉学習会の開催）

オレンジカフェ（認知症カフェ） 年9回 年間延べ参加者 166名

7 「食」の自立支援事業（高齢者） 年間延べ 10027食

8 「食」の自立支援事業（障がい者） 年間延べ 382食

9 緊急宿泊支援事業 2件

10 成年後見制度普及事業（地域福祉フォーラム等） あいサポート研修 実施回数2回

11 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業 0件

12 健康づくり啓発事業（スポーツウェルネス吹矢・スロージョギング・ナイトウォーキング）

- スポーツウエルネス吹矢大会 【1/24】 参加者 26名
 スポーツウエルネス吹矢 月4回
 スロージョギング 月4回
 ナイトウォーキング 週1回
- 13 運動機能向上訓練事業（多世代交流施設、いづなコネクト EAST パワリハ管理運営）
 インストラクター代表者会議 年3回
 インストラクター研修会 【12/18、12/22】 2回 参加者 39名
 パワリハビリ体験会 【11/15、12/17】 3回 参加者 26名
 准インストラクター養成講座 【12/11、2/27】 2回 受講者 22名
 メーラプラザ 年間延べ利用人数 3,387名
 EAST 年間延べ利用人数 1,173名
 秋の外出訓練 参加者 137名
- 14 iバスバスヘルパー業務（毎週水・金午前2ルート）
 毎週火・金曜日乗車 年間96日活動 年間延べ活動人員 192名
- 15 生涯学習事業の補佐業務（いづな大学）
- 16 生活困窮家庭の子どもに対する学習・生活支援事業【県からの受託】
 支援人数 0名 相談件数 2件
- 新17 法人後見事業
 定款等の変更
- 新18 就労準備支援事業
 作業日数 69日 延べ参加人数 240名 実利用者数 10名

3 居宅介護支援事業（ケアマネジメント）

■重点目標

ご本人が望んだ場所で、必要な支援を、必要なタイミングで利用ができるように支援を行います。

- ▶行政担当、地域包括支援センター主催の事例検討会、研修会等に事例提供を含めた参加や民生委員会への参加等で関係機関と連携を深めることができた。
- ▶タブレット導入により、コロナ禍においてもオンラインで病院内連携会議や情報共有、研修等に参加することができたり、業務効率化が図れた。
- ▶災害時の事業継続計画（BCP）について、個別対応に関して避難時の優先順位の高い方（医療依存度が高い、認知症の対応などで地域住民の避難誘導時に困難さが想定される）についての町内事業所共通の書式作成について包括支援センターに提案した。
- ▶介護に関する相談会をとおり個別相談に応じて介護申請に繋ぐことができた（2件/5件中）。
- ▶看取り期における本人の望む生活の確認については、確認時期の見極めが難しく行うことができなかった。

■課題等

関係機関との良好な関係づくりは継続強化していきたい。

ICT（情報通信技術）を用いた効率的な法人内の連絡、情報共有の方法を研究していきたい。

災害時のBCP作成を進め平時の備えと有事に対応できるようにしていきたい。

看取り期のみならず、いきいきサロンへの協力や関係者と共有を図りながら本人が望む生活を追求していきたい。

4 ふれあいの園

■重点目標

利用者が安心して利用していただけるよう、より高い専門的知識を持って支援を行います。

ADLの維持向上を目指し、科学的介護やフレイル予防の取り組みを行います。

- ▶介護技術の勉強会や認知症、医療的ニーズの高い利用者等との関わりをとおして情報共有しながら理解、知識を深めて職員のスキルアップを図ることができた。
- ▶科学的介護について情報入力を行い活用に向けて準備ができた。

- ▶新型コロナウイルス感染症対策で外出や交流事業の制限が多い中、温泉・食事〔寿司・蕎麦〕・動物ふれあい訪問等の企画で利用者を楽しんでいただくことができました。
- ▶新型コロナウイルス感染症が身近に迫り、利用者、職員家族等への感染発症があったが事業所内での感染は無くサービス提供ができた。

■課題等

様々な疾患や認知症の状態を理解し、利用者や家族に安心して利用いただけるよう更に職員一人一人の知識や技術の向上を図りたい。

職員の感染症予防対策や意識の高い体制でのサービス提供を継続していきたい。

5 むれデイサービス

■重点目標

利用者一人一人が生きがいをもち充実した時間を過ごし、心身の機能が維持できるサービスを提供します。

- ▶職員全員が同じ技術での効果的な運動・口腔機能向上支援を目指し、歯科衛生士・機能訓練指導員による内部研修を実施することができた。
- ▶新型コロナウイルス感染症拡大について利用者や家族から不安な声が多く外出事業ができなかったが、新企画のオンライン旅行に参加し、県外の有名スポットを巡るイベントや、メーラプラザの企画展（ウインターアート展）にレクリエーションで制作した多くの作品を出展し、職員が撮影した展示会場の様子を上映して制作時の苦労や作品への思いを語り合うことができ喜ばれた。
- ▶6ヶ月毎にバーセルインデックス（※1）評価を実施し、個人や全体平均の数値化を行ったが、利用者、職員間で結果を共有できなかった。

■課題等

取り組み始めたバーセルインデックスやLIFE（※2）も活用してフィードバックされた情報を共有して、自立支援とケアの質の向上を図りたい。

感染予防対策をしながら楽しめる企画を検討し、充実した時間が過ごせるような取り組みをしたい。

- ※1 食事や着替えなどのADL（日常生活動作）の10項目を自立・部分介助・全介助の分類で、100点満点で評価する検査方法
- ※2 科学的介護情報システム（国の新たなデータベース）
厚労省へのデータ提出とフィードバックの活用によるPDCAサイクル・ケアの質の向上を目指す

6 訪問介護（ホームヘルパー）

■重点目標

利用者やその家族に寄り添いながら、在宅生活が継続していかれるような支援をします。

今後もICTの活用により、事業の効率化を図ります。

- ▶研修会に積極的に参加して研鑽を積み、日々変化する状態、状況については会議や連絡表、タブレットの記録を活用し職員間の情報共有を図り、統一したケアの提供に活かすことができました。
- ▶新型コロナウイルス感染症については、適切な予防対策を徹底しながら濃厚接触者の方の在宅支援や病院送迎等に対応してサービス提供ができ、感染拡大も防止できた。
また、発熱者へも予防対策を講じて対応することができた。
- ▶タブレットは安定した利活用ができており、状況に応じて家族や関係機関等と直接連絡を行うことで情報共有や信頼関係を築くことができました。

■課題等

職員一人ひとりが利用者のプランを理解し、過ごしやすい在宅生活に向けた提案をしながら関

係機関との連携を継続強化していきたい。

ICTの活用による業務効率化は図れて法人内で応援勤務を得たが、継続している人材不足による業務調整が困難であるため人材確保が急務である。

7 グループホームわが家

■重点目標

認知症になっても、住み慣れた飯綱町で安心して生活が継続できる拠り所となるように努めます。

- ▶オンライン研修を活用する職員が増え、自己研鑽し支援に活かすことができた。
- ▶通所事業の送迎を実施するようになり利用時間にも柔軟に対応したことで、ご家族の負担軽減や利用しやすい体制を整え利用に繋げることができた。
- ▶管理栄養士と連携し個人別栄養チェックシートを作成して、メニュー・栄養状態・職員への調理技術指導・食材摂取法について学び栄養改善に取り組むことができた。
- ▶薬剤師と連携し服薬セットや確認の業務軽減が図れ、相談もできるようになった。
- ▶在宅へ戻ることができた利用者1名

■課題等

専門的ケアを提供できるように研修参加や専門職との連携を密にして職員の資質向上を図りたい。

医療ニーズが高まり、重度化していく利用者への対応と共同生活の場の在り方について職員間で共有、検討していきたい。

感染症対策を講じたため減少した地域や家族とのつながり（交流・外出・面会等）の機会を、生活スタイルの変化に合わせて開かれた環境として再構築していきたい。

変容していく家族の状況により支援が増しているため職員体制の調整が必要である。

8 りんごパーク

■重点目標

運動の成果を利用者・家族にわかりやすくフィードバックし満足度があがる仕組み作りを行います。

リハビリを卒業し、地域の予防活動に参加ができるように身体機能改善と生活機能向上を目指します。

- ▶作業療法士と連携し機能訓練に取り組むことができ、ためになるミニ講座は好評を得た。
- ▶在宅でも継続して取り組めるような運動や脳トレの提案ができた。
- ▶タブレット導入によりバイタル値や運動状態を電子化し職員間での共有が図れ、データからわかりやすいグラフを作成して運動の成果を利用者・家族に示すことができた。
- ▶リハビリを卒業するまでの取り組みはできなかったが、フィードバックしたことにより状態の把握がしやすくその後の運動に活かせる取り組みができた。

■課題等

介護予防につながる脳トレや身体機能向上につながる運動の提案、ADL（※3）の維持が実感できるような取り組みをしたい。

運動の成果として身体機能向上が図れたら、地域の予防活動に参加できるような仕組みを作っていきたい。

※3 移動・排泄・食事などの最低限の日常生活動作

9 さみずの郷

■重点目標

介護予防の拠点として生活満足度が上がるようなサービス提供を行い、身体機能及び生活機能の維持向上を目指します。

- ▶作業療法士と連携し、さみずの郷トレーニング（郷トレ）に取り組んだ。また、脳トレドリ

- ル（脳トレ）を積極的に取り入れることができた。
- ▶タブレット導入によりバイタル値や運動状態を電子化し職員間での共有が図れ、データからわかりやすいグラフを作成して運動の成果を利用者・家族に示すことができ、運動意欲の向上につなげることができた。
 - ▶多くの方に利用していただくため下半期から半日単位体制に変更したが、思う様に利用者が増えなかった。
 - ▶新型コロナウイルス感染症対策を講じ、事業所外での活動ができた。

■課題等

利用者に介護予防の情報提供としてミニ講座を開催し、機能の維持を図りたい。

多岐にわたる利用者ニーズを捉え、それぞれのニーズに応えられるサービス提供を行っていく必要がある。

わかりやすく成果を提示して運動の実感と生活に役立つ情報提供を行う取り組みを継続していきたい。

介護予防活動や事業所の取り組みを知っていただくために地域に出向き情報提供を行っていきたい。

●受託事業

飯綱町介護予防事業

お元気くらぶ

参加者 第1クール39名・第2クール：32名

すてきなおやじさんくらぶ

参加者 10名